

THE MEIJI YASUDA CULTURAL FOUNDATION

地域の伝統文化

公益財団法人 明治安田クオリティオブライフ文化財団

地域の伝統文化 第24号
平成28年11月3日発行

発行: 明治安田クオリティオブライフ文化財団
 編集: 専務理事 醤油 和男
 住所: 〒160-0023
 東京都新宿区西新宿1-9-1
 TEL: 03-3349-6194
 FAX: 03-3345-6388
<http://www.meijiyasuda-qol-bunka.or.jp>



愛媛県松山市「NPO法人姫だるまプロジェクト」
(平成28年度助成先)

後継者に技法伝承されている伝統工芸士 田中勝美（作家名：大勝）さん製作の姫だるま

**平成二十九年度
「地域の伝統文化の継承・発展活動」
に対する費用助成希望受付開始**

公益財団法人明治安田クオリティオブライフ文化財団では、平成三年六月に財団を設立以来、地域に伝承されてきた「地域の伝統文化の継承・発展活動」とくに後継者の育成に必要な諸活動に対する助成を行なっています。平成二十九年度で二十七回目をむかえます。

これまでに行なった助成は、累計千九十四件となり、その地域も全国の都道府県に及んでいます。

平成二十九年度も以下の内容により公募を行ないます。これまでに行なった助成は、累計千九十四件となり、その地域も全国の都道府県に及んでいます。

関係所管課に送付してあります「平成二十九年度助成申込要領」をご覧いただき、お申し込みください。

なお、申込要領の詳細は、財団のホームページにも掲載しています。

『申込要領の概要』

〔助成対象〕

「地域の民俗芸能」「地域の民俗技術」の継承、とくに後継者育成のための諸活動に努力をしている個人または団体。

〔助成の条件〕

平成二十九年度（平成三十年三月まで）に後継者育成を目的とする諸費用（道具整備費、製作材料費、育成研修費、記録保存費用など）の支出を予定していること。その支出を賄うために、外部からの資金協力が緊急不可欠であること。

一、申込手続
〔参考資料〕等
提出書類に基づき当財団の選考委員会で厳正に審査し、理事会に答申して決定します。

二、申込期限
平成二十九年一月三十一日（火）

二、結果発表
平成二十九年三月下旬（予定）

〔選考方法手続〕

提出書類に基づき当財団の選考委員会で厳正に審査し、理事会に答申して決定します。

〔手続日程〕

一、申込期限
平成二十九年一月三十一日（火）

二、結果発表
平成二十九年三月下旬（予定）

〔伝統文化分野選考委員〕

委員長 小島美子

（国立歴史民俗博物館名誉教授）

委員 田中宣一

（成城大学名誉教授）

委員 天野武

（儀礼文化学会名誉会員）

委員 田村善次郎

（武蔵野美術大学名誉教授）

委員 西角井正大

（国立劇場おきなわ運営財團理事）

委員 星野紘
（独立行政法人日本芸術文化振興会プログラムディレクター）

委員 渡辺行信
（活動状況がわかる写真）

〔直近の収支決算書（写真）〕

（敬称略）

〔申込書〕（所定用紙）
〔推薦書〕（所定用紙）

〔申請書〕（所定用紙）

〔活動状況がわかる写真〕

〔直近の収支決算書（写真）〕

（当財団評議員）

II 特別寄稿 II

ハリビ粉とハリビ繩のレシピ

卷之三

田村善次郎

(当財団伝統文化分野選考委員)

私の若い友人、杉山是清君は、ワラビの根茎から採取され、ハナと呼ばれるワラビ粉の研究と、その伝統的な生産技術の保存継承に努力している。彼は学生時代、故川喜田二郎教授の岩手県北上山地での生態人類学調査に参加し、遠野市附馬牛地区でワラビ粉に出会い、それが飢饉凶作時の重要な救荒食糧として活用されてきたことを知り調査を続けるのだが、その過程で、ワラビ粉が救荒食糧にとどまらず、日本に於ける農耕の起源につらなるものだと考えるにいたり、その解説につとめているのである。

杉山君によると、ワラビ粉を採取していた地域は、北海道の天塩から南は宮崎県南郷村にいたるまで、ほぼ日本全国にわたっていたといふ。それが、昭和五十五年（一九八〇）頃には、岐阜県飛騨地方の一部でごく僅かに採取されるだけになつていた。杉山君は、岐阜県大野郡高根村日和田に昭和五十九年

(一九八四)から五年間通つて、ワラビ粉採取の参与観察的調査を行い、綿密な報告書を作成したが、その後も日和田の人たちとは、ワラビ粉を通じての関わりを持ち続けて、現在に至つてゐる。高根村日和田は、平成十七年二月、高山市に編入され、高山市高根町日和田となつているが、江戸時代には阿多野郷奥山中組十二ヶ村の一つ、日和田村であつた。村は御岳高山の北面、海拔千二〇〇mの高地に位置しており、「明治二十年(一八六九)発行の『斐太後風土記』には戸数五十三戸、人口三百四十人」とある。また同書には「奥山中組の村々では、昔から米は一粒も出来ず、ヒエ、ソバを常食とし、ワラビ、ゼンマイ、ウド、ウリイ、山ゴボウの葉などを採つて茎と/or>する。耕地が少なく食料が不足するので、壮年の男は生物を飼つてこれを曳きだし、荷物の輸送に従つて駄賃を稼ぐが、または木樵、杣木挽などとして他国の山にいって賃金を得る。また女や老人は、春の耕作前と秋の収穫後、山の小屋に住んで、原野のワラビを掘り、ワラビ粉をつくつて商人に売り、その僅かな收入で暮らしを立てる」とある。壮年の男は駄賃稼ぎや山仕事で稼ぎ、女子供や老人が零細な常畑や焼畑でヒエやアワ、ソバなどをつくり、山菜を探り、また春秋二期にはワラビ根を掘つてワラビ粉をつくつて食料にもし、商品として売り出してもいたのである。

二、昭和十四年一月には「古き頃は此の蕨粉を主食物として長らく自家用に製造していくのであるが、越中国等より商人が来るようになつてから米、塩、肴などと物々交換をする。また同論文には、ワラビ粉採取のはじまりは、弘法大師が村の女に「藁一把をもつて山に行き、焼いてその下を掘るがよい、さすれば根が出るので、それをとり、つぶせば粉が採れるぞよ」と教えたことによるものであり、藁火によつてはじめて授けられたものであるから、その植物をワラビと名付けたという弘法伝説が紹介されている。そして秋神ではワラビ小屋には弘法大師の尊像やお守が祀られていって、ワラビ粉のオハツ（初穂）は必ず供えるという。日和田でも、水分を抜いたシロバナを、適当な大きさに切りとつて一升杓に入れ、弘法大師を祀つている神棚に供え、またワラビノテとかハナノテとよばれる、澱粉を多量に含んだ、掌形の根茎を掘り当つて供えるという。弘法大師がワラビ粉採取の法を教えた後に火入れをして焼き払うといふ焼いたたどりの火はともかく、藁火で峻的ではある。秋神や日和田に限らず、ワラビ野には春先かどうかはともかく、藁火で火入れをするとワラビがよく生える」という。

オバコ牧場は海拔千五〇m前後の高地で、全体で二百五十ha程の面積があり、昭和五十九年までは、まだ十数頭の牛が放牧されていたといふ。牧場といつても平坦ではなく、全面が草地になつてゐるわけでもない。ワラビ根の採取は牧場の中の何ヵ所かのワラビ植生の場所でおこなれてきた。ちなみに、ワラビの澱粉は、地上部の生育の良い、比較的の肥えたところのものより、日当たりの良い尾根に近いところで、酸性土壌の瘦せ地に生える、葉柄の細く短いものに多く含まれてゐるといふ。またワラビには毒性があり、家畜はこれを食べ性をなつたのである。



オバコ牧場の遠景、現在はほとんど樹林地になっている。
(撮影: 杉山是清氏 以下同じ)

採取地を求めて各地をまわることになるのだが、彼が訪ねた時、日和田でワラビ根を掘つてハナを作つてゐるのは僅か二戸であつた。採取地は、オバコ牧場と呼ばれる古くから放牧地で、日和田の共有地であった。



山小屋には水をひいて、水車を
しかけている。

オバコ牧場の中で昭和十五年（一九四〇）頃にワラビ根を採取していた場所と、そこにあつたワラビ小屋の数は、オバコ十戸、オバコ十一戸、ヤキガレ二戸、ヌノカワ六戸、ウチガタニ十一戸であつたという。小屋数から見て、日和田のほぼ全戸がワラビ粉を採取していたとみてよい。それが調査時には二戸になっていたのである。その二戸の採取地は、村から七キロほどの離れたオバコで、春秋の採取時には合計して七十五日ほど小屋に泊まり込んで作業をした。これは昔と同じである。小屋にはその隅に水車場が設けられており、掘り採つた根の打碎は水車でやる様になつていた。それが変化といえば変化である。水車を使う様になつたのは昭和十年代からであるという。



ワラビの採取活動の様子

四月中旬になると雪が消え、具合と晴れ間を見て火を入れるので、「二週間位かかる。」そして五月中旬から根掘りをする。はじめ、「一ヶ月ほど泊まり込んで働く。」はじめに試し掘りをして、「歩留まりのよいところを探す。」場所が決まつたら、「シダを刈りはらつて、表層に生えているシバを唐鋤ではぎ取り、ワラビの根茎を三本刃の備中鋤で掘り採り、歩留まりのいい貯蔵茎だけを残して、捨てる」とても、「漬粉の少ないヤツデ」と呼ばれる。捨てるといつても、起こした溝部分に捨てるので、かなりの部分が土に覆われ、発芽して繁殖する。ヤツデは植生復元の種になるものである。掘り採つたあと、ワラビ植生が復元して、また掘られる様になるのは早いところである。普通七、八年かかるといふ。植生の回復状態は生えているワラビの本数を見て知る。したがつてワラビ根の採取は、複数の採取地を移動しながらおこなうのである。

五十kgのワラビ根から平均して、乾燥重量でシロバナ〇・二八七kg、クロバナ〇・七五kgがとれるので、七十五日働くとして計算すれば、シロバナ〇・二八五・一五kg、クロバナ〇・五十二・五kg、合計二百六十七・七五kgの澱粉が採取されることになる。杉山君は彼が調査した夫婦と青年男子一人の三人家庭が一年に採取したワラビ粉を六百三十七・五kgとして、そのカロリー、総量は百八十四万カロリー、強度は三人が一日に六千カロリー



沈殿作業の様子

フルイにかけて漉し、ハナ槽にうつして沈殿させる。上層に不純物の混じったクバナ、下にシロバナが沈殿するのだが、その割合は、クロ二に対してもシロ八位である。充分に沈殿したところを見計らって上水を捨て、表面に布を敷き、乾燥した灰をのせて水分を抜く。充分に水分が抜けたら、澱粉のかたまりを五センチ角位の大きさに割つて、蓮の上などに広げて乾燥させる。大きく割りとろいの中の粉々にしてしまうと空からである。

リー消費するとして、三百日にあたると試算していい。想像していた以上に高い生産力だと云つてよいだろう。火入れなどに要した日数を加えると、百日か、それ以上になる日を、不便な山小屋で過ごし、原野にいどむ重労働の成果にふさわしいものでありますか」というと、その評価は分かれるところであり、時代の進展はそれを否とし、捨てる方向に進んだ。杉山君が調査した二戸も、後継者がいるわけではなくて、ワラビ粉の生産は止めてしまった。しかし、ここでは極めて粗く、省略した形でしか紹介出来なかつたけれども、ワラビ根を採取してハナをとり、また、その過程で打碎した繊維をワラビ繩として、用に供する技術は、遠い時代から先人たちが編みだし、えてきたもので、極めて高度な水晒し技術の結晶であり、文化的価値の非常に高い民俗技術であると云わざるを得ない。そのことに気づいた杉山君は、日和田の心ある人たちと計つて、ワラビ粉、ワラビ繩の生産を継承復活し、その普及に努めている。活動は普段、作つたにすぎないのだから、昨年三十kgとワラビ繩若千kgを試験的に行なったばかりで、京都御所や二条城などの垣繩とし、引き合ひがきており、ワラビ粉は、著名的な茶道関係の表具師や京都国宝装潢師連盟から、古い日本画の裏打用と使いたいと、サンプルの申

以上は、民俗技術の保存と継承、そして活用の一つの例である。杉山君や日和田の人たちの活動が軌道に乗つて、飛驒山村に活気が戻つてくる日の一日も早からんことを切に願つてゐる。

ちなみにワラビ縄は、大蔵永常の『公益國產考』に「垣などを結に用ふるに、雨に濡れても腐ることなし、また風流の垣を結には緑簾を水にて煮、その中にこの縄を入れ、引上れば真黒に染る也」とあるように、強韌で水湿に強いので、垣縄としてだけでなく、船の帆綱や錨綱、各種土木工事に使われるなど、用途が広く、各地で作られていたのだが、ついついその技術は、日和田で残っているだけになつてゐる。

出があり、ワラビ餅を名物とする菓子屋などからも注文があつて、関係者は意を強めている。彼らは日和田地区の振興を目的として設立されたNPO法人「ワイ・アイ・ケー」と協力して、いまは樹林となつて、いはオバコ牧場、二百六十haを放牧地として再整備し、かつてのよう牛を放牧し、飛騨牛の仔取生産をするすすめると同時に、ワラビの優先するワラビ植生地からは、伝統的な自然管理技術に乗つ取つた形でワラビ根を採取し、ワラビ粉、ワラビ縄の生産と販売を行おうと計画している。そのことによつて、限界集落となつた日和田を活性化するのが当面の目標であるが、それだけでなく、その動きを飛騨山村全体に広めて、山村振興のさきがけとしたいという意図をもつてゐる。

II 現地取材レポート II

福島県西白河郡泉崎村

「太田川梅若歌念佛踊保存会」様を訪ねて

梅若伝説の郷を訪ねて

今回は、福島県西白河郡泉崎村太田川地区の『太田川梅若歌念佛瑞保存会』様をお訪ねしました。

取材当日は、小林百合子会長をはじめ、子ども達を含む十九人の方々にお集まりいただき、日頃の活動内容のお話を伺い、念佛踊りの練習を拝見することができました。また、NPO法人「民俗芸能を継承するふくしまの会」事務局長の國分球子様に、もご参加いただきました。

気候は、年平均一一度（一二度）で、福島県内では比較的温暖な地域です。積雪は少なく、積雪期間はわずかです。降水量は県内では少雨地帯に属します。

人口は約六五〇〇人（平成二十八年九月時点）で、村の産業は、米を中心に畜産、葉たばこ、野菜などですが、昭和四十年頃以降その就業人口は徐々に減少しています。一方、高速道路や新幹線の開通などに伴つて大型企業が進出し、第二次産業の振興が目ざましいところです。特産品では、ハトムギ茶、トマト、キュウリ、水耕野菜などがあります。

東日本大震災では、インフラを中心大きな被害を受けました。泉崎村では、震災発生直後から被災者の各種生活再建支援が始まわり、原発事故による除染事業も周辺市町村よりも早期に着手され、平成二十七年度で住宅・道路・企業などのすべての

泉崎村は、福島県の「中通り」南部に位置し、東京から約二〇キロメートル、県都福島市から約七五キロメートルの距離にあります。

福島県は念佛踊の宝庫

福島県内には「空也念佛踊」、「会津大念佛踊」、「歌念佛踊」、「天道念佛踊」、「じやんがら念佛踊」など、多彩な念佛踊が広く伝えられており、中でも「歌念佛

その後も熱心に練習を重ねながら定期的に活動をされています。現在の保存会員は大人一八名のほか、今年の七月から、幼稚園と小学生の子ども達も練習に参加しています。

梅若伝説とは

泉崎村には「梅若伝説」という古い話が今に伝えられています。

「柳家伝説の柳暗」
平安時代の中頃、京都の公家
で吉田少将惟房（これふさ）と

美濃国野上の長者の一人娘・花御膳の間に生まれた梅若丸という少年がいました。梅若丸が五

歳のとき、若くして吉田少将がこの世を去った後、梅若丸は父の供養と仏学を学ぶため比叡山月林寺で修行に励みます。

者と称して人買ひの信夫の藤太（しのぶのとうだ）がやつてきました。そして、母が病だとまださまで誘拐されます。その後諸国を連れ回された後に隅田川の畔で、重い病で動けなくなり、梅若丸は十二歳の生涯を閉じてしまします。

一方、梅若丸の失踪を知った母花御膳は、我が子を探しさまよい歩きます。しかしどうとう息子の死を知り、自分も隅田川に身投げしてしまったという悲し

い話です。

い話です。



東京都墨田区にある木母寺の梅若念佛堂

そして、関東地方から東北地方にかけて、旧暦三月十五日に『ウメワカ』、『ウメワカキ』、『ウメカラマ』、『ウメワカゴト』と呼ばれる行事が行われていた。

そして、関東地方から東北地方にかけて、旧暦三月十五日に『ウメワカ』、『ウメワカキ』、『ウメカラサマ』、『ウメワカゴト』と呼ばれる行事が行われていた。

ことが知られており、行事の呼称から、この梅若伝説が関東・東北の各地域に伝わっていったと考えられます。

また、泉崎村には「壹藏太（きぎやうた）」という地名が残されており、この伝説に登場する人買いの「信夫の藤太」は、泉崎村を本拠地にしていましたという伝説が残されています。そのため、泉崎村では古くから梅若丸を供養するための塚がつくられ、民謡や踊りの中に弔いの言葉が込められました。そうして伝えられてきたのが「太田川梅若歌念佛踊」です。

泉崎村には、「梅若丸和讃（注）と題された文政七年（一八二四）の和讃帳が残されており、少なからず江戸時代後期には念佛踊が行われていたことが伺えます。

（注）和讃＝仏教歌謡の一種

苔取りや掃き掃除を行い、水を花を生けて線香をあげます。

A photograph of a small, traditional Japanese shrine (chörin) with a tiled roof and a stone staircase leading up to it, situated in a forested area.

平次山にある梅若丸を供養する不動堂

当日は、朝八時に集合して椅子子・マイク等の会場準備を行い、その後衣装に着替えます。

常願寺には大田川地区の住民の皆さんや泉崎村の方も見学に見え、午前十時から、村長などのご来賓挨拶、常願寺ご住職の挨拶の後、語り部で保存会の副会長でもある大森光子様が『梅若伝説』の話をされ、全員が聞き入ります。

〔太田川梅若歌念仏踊〕の披露は、梅若丸の命日は旧暦三月十五日ですが、現在は人が集まりやすいように毎年の四月二十九日に太田山常願寺（じようがんじ）で行われています。常願寺は、嘉曆三年（一二三一八）の開基とされ、宗派は天台宗です。梅若伝説発祥の木母寺も同じ天台宗であることから、古くから常願寺で供養が行われてきたものと考えられます。

太田川梅若歌念佛踊の披露



梅若伝説を語られる大森様（本堂中央）

続いて、会員の皆様により
『太田川梅若歌念佛踊』が本堂で
披露されます。

梅若丸和讃は約十五種で、一曲全部で五曲まであります。二曲までを披露されています。三曲を約八分～九分で踊ります。

踊りの披露は午前十一時頃に終了し、その後は反省会をかねて昼食をとり、後片付け後、解散します。

二、いんゆうてんのうのごきんしんよしだのしようしようこれふさの（念佛）
三、わすれがたみのひとりきみ
うめわかまるともうせしは
四、おんとじにさいの……………（以下省略）

中央では主役三役である「梅若丸」、「信夫の藤太」、「梅若丸の母」が踊り、その他の踊手達が回りを廻るよう踊ります。お囃子は、一人が桶胴太鼓と縄太鼓を担当し、四人が鉦を担当しながら、梅若丸和讃を歌います。

保存会の活動について

現地取材を終えて

A group photograph of approximately 18 people, including adults and children, posed in front of a highly ornate wooden shrine or altar. The shrine features intricate carvings and gold leaf decorations. The group is arranged in two rows, with some people standing behind others. They are dressed in a mix of traditional and modern clothing.

保存会の皆さま

梅若歌令仆踊 ①

A photograph showing a group of approximately ten people dressed in traditional Japanese courtly attire (kyōfū). They are standing in a row, facing towards the right side of the frame. The setting appears to be a formal hall or temple interior, with a large, ornate golden structure, possibly a Buddhist altar or screen, visible in the background. The individuals are wearing various colors of robes, including shades of purple, blue, and white, with some having decorative patterns like stripes or dots.

梅若歌念仏踊(2)

保存会の役員は、会長一名、副会長一名、会計一名、監査二名で構成されています。これまで大人だけで活動をされていましたが、今年の七月からは子ども達に呼びかけ、幼稚園から小学生まで十一名が参加してくれています。また、男性の唄い手も一名増えて賑やかになっています。

特に子ども達は、楽しんで練習に参加してくれています。毎週金曜日の練習のほか、遠くから参加される唄い手の方も含めた練習を、月に一、二度、日曜日に行つておられます。子ども達の参加で、今後は、その親御さんの達にも興味を持つてもらい参加されることに期待されています。

年間の活動は、四月二十九日の常願寺での披露のほか、十一月に「県高齢者芸能発表会」や「西白河郡老人クラブ芸能発表会」へ参加されています。また今後、NPO法人「民俗芸能を継承するふくしまの会」主催の全国的な催しにも参加される予定です。

民俗芸能の継承は活動資金面や後継者育成などにおいて多くのご苦労があるものと拝察いたします。地区の皆さんのご協力のもとに、「太田川梅若歌念仏踊」が今後とも末永く継承されていくことをお祈り致します。

本レポートの作成にあたり、泉崎村役場の嶋村一志様にご協力をいただきました。ありがとうございました。
（財団事務局長 山内彰）

文化の誕生
説と幻の町・隅田宿

寄稿

岩瀬白山町曳山囃し方の継承について

富山県富山市
岩瀬白山町曳山愛好会
会長 高見 嘉義
(平成二十八年度助成先)

◇岩瀬曳山車祭りとは

岩瀬は、富山市の北部、神通川の河口、富山湾に面し、富山港を抱えた地域であります。今から約三百五十年余前、万治二年（一六五九）今の岩瀬町に移住した人々が諏訪神社の分霊を勧請し、その際、ご神体に随行して神社の建築用材を井桁に組んで運んだのが、曳山祭りのはじまりであると伝えられていますが、現在では、寛政四年（一七九二）の大火の後、復興を祝い災厄を防ぐ祈りのなかから、「あんどん山車」を曳くようになつたという説が有力になっています。



当祭は、毎年五月十七日、十八日の二日間に行われる岩瀬諏訪神社の春季例大祭で十三基の曳山車が岩瀬の町を曳き回します。

◇曳山車祭りの特徴

絢爛な曳山車とは異なり、頑丈に造られた曳山車本体の上に「たてもん」と呼ばれる飾りを取り付けて、勢いよく引き回すのが特徴です。夜には、「けんか曳山車」という異名を持ち、重量五トンもある曳山車同士激しくぶつかり合い、お互いの力をくらべる引き合いが行われます。諏訪神社の神様は、荒々しいことを好みますが、現在では、寛政四年（一七九二）の大火の後、復興を祝い災厄を防ぐ祈りのなかから、「あんどん山車」を曳くようになつたという説が有力になつております。

曳山車の曳き出しは、必ず「木やり」という掛け声で音頭をとり、曳き子が声を合わせて引つ張ります。この「木やり」で曳き子の力を統一するやり方は、漁師の網起し、和船の帆柱起しと同じやり方であります。曳山車が動き出すと、木の車輪と木の心棒の軋る「ギー」という音がして、この音を響かせながら町内を引き回しております。

その後、人手不足の関係から各町内に囃し方が揃わなくなったり、次第に録音テープに吹き込んだ囃しをスピーカーで流すようになり、時代の流れとはいえ、住民誰しも淋しさを感じたものでした。

昭和五十年代に入り、「岩瀬の曳山車の曳き出しは、必ず「木やり」という掛け声で音頭をとり、曳き子が声を合わせて引つ張ります。この「木やり」で曳き子の力を統一するやり方は、漁師の網起し、和船の帆柱起しと同じやり方であります。曳山車が動き出すと、木の車輪と木の心棒の軋る「ギー」という音がして、この音を響かせながら町内を引き回しております。

その後、人手不足の関係から各町内に囃し方が揃わなくなったり、次第に録音テープに吹き込んだ囃しをスピーカーで流すようになり、時代の流れとはいえ、住民誰しも淋しさを感じたものでした。

その後、人手不足の関係から各町内に囃し方が揃わなくなったり、次第に録音テープに吹き込んだ囃しをスピーカーで流すようになり、時代の流れとはいえ、住民誰しも淋しさを感じたものでした。

その後、人手不足の関係から各町内に囃し方が揃わなくなったり、次第に録音テープに吹き込んだ囃しをスピーカーで流すようになり、時代の流れとはいえ、住民誰しも淋しさを感じたものでした。

さらに、九月六日には富山第一ホテルにて北陸銀行など金融機関の懇談会の場で演奏することとなり、続く、九月十一日には、町民の皆様に感謝を込めての白山曳山納涼祭を企画して、発表する運びとなりました。これを機に、岩瀬白山町曳山囃し方は、新たな一步を力強く踏み出そうとしております。

夜深くなるまで、笛、三味線、太鼓の囃し方方は、曳山車本体の上部でにぎやかに演奏し、曳山車に趣を添えています。

◇お囃子について

昭和三十年代まで、囃し方は地元民で演奏しておりました。方々の多くは、「岩瀬の曳山車は、音と光とエネルギーの一体化したもの」と語られています。

このことからも、音の世界を担う囃しが、曳山車を支える他の要素といいかに一体化し、溶け合っていくかが、伝統文化を継承発展していくため、今、強く求められています。



◇新たなる歩を踏み出す

演奏道具を揃えてから三十年余が経過しており、経年劣化も激しく、近年、更新する必要に迫られていました。曳山経費も、人口減による世帯数の減少、事業所・商店街の縮小、撤退が重なり収入も年々減り続け頭をかかえておりました。今春、助成をいただくことになり、早速、今祭り直前に演奏道具を購入することができます。多くの町民の前でお披露目会を経て、新たな音色で心一つに曳山祭りを執り行うことができました。

演奏道具を揃えてから三十年余が経過しており、経年劣化も激しく、近年、更新する必要に迫られていました。曳山経費も、人口減による世帯数の減少、事業所・商店街の縮小、撤退が重なり収入も年々減り続け頭をかかえておりました。今春、助成をいただくことになり、早速、今祭り直前に演奏道具を購入することができます。多くの町民の前でお披露目会を経て、新たな音色で心一つに曳山祭りを執り行うことができました。

現状について

◇現在の継承活動の現状について

毎年、正月明けから町内会公民館を利用して、お囃しの練習を行っています。横笛については小学生から高校生まで約二十名で練習に励み、三味線、太鼓は大人が担当しております。四年前、主宰者が亡くなつたことから、急遽、新規演奏者の確保にも注力しております。また、町内在住の小学生には必ず横笛の練習会に参加してもらうよう働きかけており、指導の際には階名で歌わせ、指使いも階名で教えながら練習を進めます。なお、週二回の練習が必要であり、一回は新音、つまり、無形のものは、耳を通じて受け継がれ、囃し方のおさらいをする効果が上がることで拍子木が入る→囃しの終わると止まる→「木やり」と・のパートーンが定着しつつあります。

岩瀬の曳山車に熱い想いを抱く地元民で演奏しておりました。方々の多くは、「岩瀬の曳山車は、音と光とエネルギーの一体化したもの」と語られています。

ターンが定着しつつあります。岩瀬の曳山車に熱い想いを抱く地元民で演奏しておりました。方々の多くは、「岩瀬の曳山車は、音と光とエネルギーの一体化したもの」と語られています。

ターンが定着しつつあります。岩瀬の曳山車に熱い想いを抱く地元民で演奏しておりました。方々の多くは、「岩瀬の曳山車は、音と光とエネルギーの一体化したもの」と語られています。



(昭和25年当時の曳山の様子)

寄稿 地域の伝統芸能 龍口獅子舞について

奈良県宇陀市室生龍口
龍口獅子舞保存会

事務局 岩本 秀清
(平成二十八年度助成先)

△継承されてきた行事と特色

龍口獅子舞保存会が伝承する獅子舞は、儀式を重んじ優雅に舞う『四方』(しほう)『御参』(ごさん)、刀を手にした獅子が勇壮に舞う『悪魔祓い』、敏速奇抜な動きの天狗と獅子のアクロバット的コンビネーションが絶妙な『天狗』、「ちよけ」と呼ばれる剽軽者と獅子がユーモアたっぷりに舞う『獅子踊り』の五神樂で、また、龍口地区内全戸で家内安全を祈願して『村舞わし』(むらまわし)も行われる。



(四方舞)



(天狗舞)

△起源と沿革

龍口獅子舞の起源は明確ではなく、その詳細についての伝承はないが、先輩からの言い伝えによると、明治中頃より奈良春日神社系の獅子舞として十五才までの子供によるユーモラスな子供獅子舞であったものが、後継者不足で伝承が困難になつたのを機に、昭和三十年頃、当時の青年団が伊賀上野敢国(あえくに)神社系の大人獅子舞を修得した上で、従来の龍口獅子舞特有の舞いを織り交ぜ現在に伝承されてきたものである。

龍口獅子舞は、旧室生村から無形民俗文化財の指定を受け、その後町村合併により宇陀市か

ら無形民俗文化財の指定を受けた。平成二十八年には伊賀系二人立ち獅子舞を正確に伝承しているとして奈良県無形民俗文化財の指定を受けるに至っている。

△定例行事の開催状況

龍口白山神社の秋の祭礼(毎年十月の第四土曜日宵宮、日曜日本宮)に、二日間に亘って

R・近鉄各奈良駅前で公演した。龍口獅子舞保存会は、宇陀市から伝統芸能の伝承に係る若干の会計基盤の大部分は氏子からの祝儀で成り立つており、地元氏子が龍口獅子舞という伝統芸能の伝承に深い理解を持ち、物心両面からサポートしてくれることによって支えられている。

△後継者の育成と将来の展望



(村舞わしの様子)

△継承活動の経緯と状況

龍口獅子舞は、長年に亘り後継者不足でその存続が危ぶまれてきたが、平成四年、頂いた助成金を基に、伝統芸能の承継を目的として、青年会の退会者が

中心となって龍口獅子舞保存会が設立された。現在保存会の会員は二十歳代から六十歳代まで男女合わせて五十名で、うち三割程度の会員は龍口地区外に居住し、秋祭り等の行事のために帰ってきて参加している。

龍口獅子舞保存会の設立後は、奈良県教育委員会の支援の下、各地で伝統芸能を披露する機会を得た(ニュージーランドオーランド市で開催された近畿観光展、関西国際空港で開催された紀伊半島観光物産展、広島博覧会等)。また、昨年に引き続き本年も奈良県大芸術祭において奈良県民俗芸能として、JR・近鉄各奈良駅前で公演した。

龍口獅子舞保存会は、宇陀市から伝統芸能の伝承に係る若干の補助金を毎年頂いており、地元氏子が龍口獅子舞という伝統芸能の伝承に深い理解を持ち、物心両面からサポートしてくれることによって支えられている。毎年祭礼の二ヶ月前から毎水曜日と土曜日の夜、獅子舞の技術伝達、篠笛、太鼓の演奏など熱の入った練習を重ね、同時に後継者の育成を計っている。また、毎年研修旅行を実施して、会員相互の親睦を深めるとともに、後継者の確保に努めている。龍口白山神社祭礼の目玉であり、それが一度廃れてしまうと復活することは不可能である。そのため会員のみならず地区の住民全てが理解し協力し合つて伝承に努力しなければならない。

区内の全ての氏子宅で「村舞わし」を行い、祭礼を執り行う二軒の頭屋で「頭屋舞わし」をそれぞれ祈祷舞いし、頭屋から白山神社への「お渡り」行列では、保存会会員が高張り提灯、長持をもってその行列を先導し、神社では宵宮・本宮ともに八枚の筵を繋いだ舞台で五神樂全てを奉納舞いする。

また、本宮は、保存会会員による無料の模擬店が出店され、祭礼に参拝された氏子や最近増ええたアマチュアカメラマン、見物客に大変歓ばれている。

なお、龍口獅子舞保存会設立後多年経過により、獅子頭や太鼓等の道具類が劣化し、その補修のための資金繰りに悩まされていたが、本年、再度の助成金を受けることができ、綺麗に修理された獅子頭並びに新調された太鼓で新たな龍口獅子舞保存会の伝承が始まつた。

寄稿

東方組太鼓踊りの継承について

熊本県球磨郡湯前町
東方組太鼓踊り保存会
会長 藤本 政幸

(平成二十八年度助成先)

います。全体で一時間二十分程度を要する踊りの流れは、次の一とおりです。



◇球磨地域の白太鼓踊り

熊本県球磨郡湯前町（ゆのまえまち）は、熊本県南西部の山間に位置します。白太鼓踊りは、氣鼓舞を目的とした鍛練と民間で踊られていた豊年祭の十五夜踊りが結びついて成立したといわれています。鍛練の所作である鉦と太鼓の打鳴らしは、球磨地域に残る平家落人伝説を想起させることから、源平合戦を表現するものとなっています。

白太鼓踊りは、平成二十七年度に日本遺産に認定された「相良700年が生んだ保守と進取の文化／日本でもっともゆたかな隠れ里／人吉球磨」の主な構成文化財であり、大別して、「東上り」、「東下り」、「こう夜町」、「若殿」の四つに分類されます。

- ・**対峙の陣**（両軍小競り合いののち一触即発の場面）
- ・**頭の出打ち**（源氏の総大将）
將兵の戦意を鼓舞すべく、総大将自ら敵陣を斥候し、我に續けとばかりに勇壮な舞で敵を凌駕せんとする場面
- ・**脇の出打ち**（徒步侍大将・胄は鉄型の角）
戦場の喧騒の中にあるながら、悠長で堂々たる鏡太鼓の場面
- ・**歌の陣**
荒馬を駆って縦横無尽に戦野ぶりの場面

「音に聞こえし判官は 東下り
東方組（ひがしかたぐみ）太鼓踊り保存会では、四つの踊りのうち、最も勇壮活潑をもつて知られる「東下り」を伝承して

をなされるが、その日の出立装束は、いつより優れて華やかに、いと緋緞の鎧草（ひおどしよろいぐさ）日本の武士とはかくなれし」と唄う場面。一番の見せ場。怒涛のように寄せては返し、返しては寄せ、戦場にこだまする太鼓と鉦の乱打、めまぐるしく駆け回る荒武者の姿、果ては両大将の一騎打ち、文字どおり白兵戦の場面。



(昭和52年当時の頭の出打ち)

◇東方組太鼓踊りの継承

東方組太鼓踊りは、昭和四十五年に、町の無形民俗文化財の指定を受け、昭和五十四年まで藤本家で面倒を見ており、道具の保管、稽古の場、衣装の洗濯、踊り後の慰労会なども当家でした。

東方組太鼓踊りの習得により、後年は地元に残り、青年団活動や踊り手の一人として保存維持に協力してもらえた、その結果、平成二十七年度には、全国青年大会の郷土芸能の部門で最優秀賞を受賞することができました。



◇白太鼓踊り全体の継承

人吉球磨には三十九の太鼓踊りの団体がありますが、半分以上は後継者不足により休止状態です。残りの団体も、年に一、二回踊るか踊らないかという状況です。辛うじて、十団体位が地元神社の大祭、町のフェスタなどで披露しています。しかし、どの団体も高齢、少子化による鉦打ちの不足で、ここ数年のうちに、休止の危機に直面しています。

この状態を少しでも改善し、協力して途絶えることなくお互に頑張りましょうという事で、平成二十八年に「人吉球磨白太鼓踊り保存協議会」を立ち上げました。協議会としても、後継者不足で休止の危機に直面している団体の保存継承に協力していただきたいと思います。

全国的にも、全国青年大会郷土芸能の部の参加団体も減少しており、無形文化財の保存がいかに難しいかが伺われますが、当保存会・協議会とも今後の継承に向け、頑張りたいと思いま

年前から地元中学校生徒による中学校文化祭で東方組太鼓踊りを発表する企画がスタートしました。子供達の踊りにより、神社の大祭も昔の賑わいを取り戻しここ数年は、県立劇場、県庁

大会議室舞台など出演依頼があり、沢山の観客の前で披露することができました。このような中学校生徒による太鼓踊りの習得により、後年は地元に残り、青年団活動や踊り手の一人として保存維持に協力してもらえた、その結果、平成二十七年度には、全国青年大会の郷土芸能の部門で最優秀賞を受賞することができました。

「里宮神社の神楽」とともにDVに保存いたしました。しかし、今後を考えたとき、私たち馬場地区の小学生が僅か二名あることなどから、何年続けられるかは未知数です。場合によつては、起業化しても残して行かなくてはならない時代が来ると思います。

平成3年～28年 都道府県別伝統文化助成先一覧(1)

*印は民俗技術

助成先		助成先		助成先	
		平成5年度助成(35)		平成3年度助成(29)	
徳島県	猿坂獅子組保存会	北海道	ヤイユーカラの森 *	北海道	石崎奴保存会
愛媛県	八幡丸運営委員会	青森県	新十津川町獅子神楽保存会	青森県	厚岸かぐら保存会
高知県	宮谷堂の口あけまつり保存会	岩手県	新山権現保存会	岩手県	紙漉沢獅子踊保存会
福岡県	四三嶋獅子廻し実行委員会	宮城県	上郷伝統工芸研究会 *	宮城県	七戸町郷上芸能保存会
長崎県	館浦須古踊り保存会	秋田県	赤沢芸能保存会	秋田県	白浜剣舞保存会
熊本県	大島村盆踊り振興会	山形県	宮崎獅子舞保存会	山形県	とよま囃子保存会
大分県	中江岩戸神楽保存会子供神楽部会	栃木県	中野七夕保存会	群馬県	今利一郎氏(深山和紙製造)*
宮崎県	重岡岩戸神楽保存会	群馬県	堀内伝承文化保存会	東京都	岩島麻保存会*
	村所神楽保存会	埼玉県	山岡和三郎氏(日光下駄) *		説経節の会
鹿児島	佐々木寛治郎氏(手漉き和紙)*	千葉県	大神楽獅子舞保存会	新潟県	秋川歌舞伎保存会
沖縄県	蓬原熊野神社神舞保存会	神奈川県	明覚郷流鏑馬保存会	福井県	神谷地域ビデオ収録委員会
	伊江村民俗芸能保存会	石川県	野田津久舞保存会	長野県	越前万歳保存会
平成7年度助成(43)		福井県	大谷芸能保存会	岐阜県	木曾漆器保存調査会*
北海道	月浦獅子舞保存会	岐阜県	能登の揚浜式製塩保存会*	三重県	大井文楽保存会
青森県	釧路アイヌ民芸企業組合*	愛知県	花山行事保存会	奈良県	東玉垣唐人踊り保存会
岩手県	沼崎念仏鵜舞保存会	三重県	岐阜県地歌舞伎保存振興協議会	和歌山	石打太鼓踊保存会
秋田県	小梨芸能保存会	滋賀県	甚目寺説教源氏節人形芝居「もぐもく座」	島根県	大島水門祭保存会
山形県	戸沢ささら保存振興会	兵庫県	東玉垣唐人踊り保存会	島根県	西本里美氏(西田葛の復興)*
福島県	鷹巣町綴子太鼓上町保存会	和歌山县	二木島祭保存会	広島県	島後久見神楽保持者会
栃木県	遊佐のアマハゲ保存会	島根県	吉身祭礼保存会	徳島県	比和町郷土芸能振興会
千葉県	峠ノ山八幡神社弓祭協賛会	広島県	福田お幡入れ法伝哉伝承保存会	福岡県	金城一国斎後継者池田昭人氏*
新潟県	葛尾三匹獅子保存会	山口県	土生八幡神社お頭保存会	長崎県	西原上十二神祇神楽保存会
富山県	大沢田太々神楽保存会	徳島県	西本里美氏(西田葛の復興)*	大分県	中村園太夫座人形浄瑠璃
福井県	佐原囃子保存会	香川県	中野神楽保存会	宮崎県	加布里山笠保存会
山梨県	片野尾歌舞伎保存会	高知県	八千代神楽団		新多神相撲保存会
長野県	八尾町曳山保存会	福岡県	鶯の舞保存会		長崎県
岐阜県	糸崎寺佛舞保存会	長崎県	森藤獅子舞保存会		大分県
三重県	福谷区大火勢保存会	香川県	中山農村歌舞伎保存会		宮崎県
滋賀県	藤木道祖神祭保存会	高知県	佐喜浜八幡宮古式行事保存会		
大阪府	信級中原流太々神楽囃子保存会	福岡県	内野地区老松神社獅子舞保存会		
兵庫県	高雄歌舞伎保存会	長崎県	坂本浮立保存会		
鳥取県	深野和紙保存会*	熊本県	上井出神社奉納楽保存会		
島根県	岩熊区雅楽保存会	大分県	大行事八幡宮(カッパ)踊保存会		
	能勢町人形浄瑠璃実行委員会	宮崎県	村所神楽保存会		
岡山県	堺式手織段通技術保存協会*	鹿児島	東郷町文弥節人形浄瑠璃保存会		
広島県	熊野神社裸祭り保存会				
山口県	新田人形浄瑠璃芝居相生文楽				
徳島県	鹿子原の虫送り踊り保存会				
香川県	出雲民芸紙工房*				
愛媛県	壬生農村歌舞伎保存会				
高知県	常定神楽継承団体「戸山会」				
福岡県	別府岩戸神楽舞保存会				
佐賀県	犬飼農村舞台保存会				
長崎県	家の浦二頭獅子舞保存会				
熊本県	大江山保存会				
大分県	野市町立山神社棒術獅子舞保存会				
宮崎県	平八月祭り保存会				
鹿児島	西塙谷面浮立保存会				
	武雄流鏑馬実行委員会				
長崎県	中尾獅子浮立と唐子踊保存会				
熊本県	久連子古代踊り保存会				
大分県	丸山俚楽保存会				
宮崎県	今西三段打分太鼓踊保存会				
鹿児島	入来麓泡瘡踊保存会				
	佐仁八月踊り保存会				
	中村悦子氏(芙蓉布復元)*				
平成8年度助成(47)					
北海道	留萌岩戸神楽保存会				
	(財)アイヌ民族博物館*				
青森県	古懸獅子舞保存会				
岩手県	行山流都鳥鹿踊保存会				
宮城県	平組はしご虎舞保存会				
秋田県	武鉦鹿踊保存会				
	鷹巣町綴子下町太鼓保存会				
	鳥田目番楽保存会				
		山口県	名荷神楽団		
			徳地人形浄瑠璃保存会		

平成3年～28年 都道府県別伝統文化助成先一覧(2)

*印は民俗技術

助成先		助成先		助成先	
大分県 国東神楽社 宮崎県 綾町宮原地区唐人踊り保存会 鹿児島 伊崎田和紙保存会＊ 沖縄県 鹿児島市中山町下虚無僧踊保存会 草戸原 前バル原		京都府 棚倉孫神社瑞饋御輿保存会 大阪府 久多の山村生活用具保存会＊ 兵庫県 貝塚三夜音頭継承連絡会 奈良県 播州音頭踊保存連合会 和歌山 安堵町なもで踊り保存会 鳥取県 高芝の獅子舞保存会 島根県 福栄伝統芸能保存会 岡山県 民谷神楽団 広島県 大賀島大智明權現保存会 徳島県 江波漕伝馬保存会 香川県 高川原勇獅子保存会 高知県 東かがわ市白鳥虎頭舞保存会 福岡県 土佐の暮らしの文化を守る会 佐賀県 松会保存会 長崎県 飯田面浮立保存会 熊本県 若宮稻荷神社竹ノ芸保存会 大分県 中窪田神楽保存会 宮崎県 野々河内神楽保存会 鹿児島 高城町穂満坊あげ馬保存会 沖縄県 德重大太鼓踊り保存会 伊波利秋氏(ゴッタン・樂器製作)＊		山形県 西川一座 福島県 上三坂のやっつき踊り保存会 茨城県 あんば囃子保存会 栃木県 宗円獅子舞保存会 群馬県 沼田祇園囃子保存会連合会 千葉県 仁組獅子舞保存会 東京都 ふるさと資料館建設推進委員会＊ 神奈川 仙石原神楽保存会 新潟県 赤玉文化財保存会 富山県 八尾町曳山保存会 福井県 時の会-福野の過去・現在・未来-＊ 山梨県 加茂神社上宮の神事 長野県 大久保文化財保存会 岐阜県 沢登六角堂切子保存会＊ 愛知県 成就神楽囃子保存会 三重県 阿島傘の会＊ 三重県 串原歌舞伎保存会 (財)平野町民政会 一色町能楽保存会 深野和紙保存会＊	
北海道 蘭越町根曲がり竹細工研究会＊ 青森県 穂別町アイヌ民族文化保存会 岩手県 龍神社法靈神楽保存会 宮城県 山内神楽保存会 秋田県 城生野神楽会 山形県 大沢郷椒沢番楽保存会 福島県 越沢自治会 茨城県 海老根伝統手漉和紙保存会＊ 栃木県 豊景神社太々神楽保存会 群馬県 日枝神社流鏑馬保存会 埼玉県 升塚獅子舞保存会 東京都 奥平神社獅子舞保存会 新潟県 深作さら獅子舞保存会 富山県 江戸消防彩粹會 石川県 杉野沢民俗芸能保存会 福井県 福光ちよんがれ保存会 上井田獅子舞保存会 福井県 美浜町和田区 山梨県 中之倉神楽保存会 長野県 日野多慶子氏(願法寺の絵解き) 三重県 曽原かんこ踊保存会 滋賀県 油日神社奴振り太鼓踊り保存会 大阪府 吉志部神社どんじ保存会 兵庫県 大蔵谷獅子舞保存会 奈良県 吉野山青年団御田植神事保存会 和歌山 小川郷土芸能保存会 鳥取県 芦津獅子舞保存会 島根県 御靈会風流保存会 広島県 幸崎町能地春祭保存会 山口県 数方庭保存会 徳島県 阿波木偶箱まわし保存会 香川県 さぬき農村歌舞伎祇園座保存会 愛媛県 高知獅子保存会 長命講伊勢踊 高知県 土佐歌舞伎伝承会 福岡県 今津人形芝居保存会 佐賀県 嘉瀬之浦獅子浮立保存会 森鉢浮立保存会 長崎県 西大村浮立保存会 熊本県 横木神楽保存会 大分県 高沢組太鼓踊り保存会 宮崎県 五馬本村楽保存会 鹿児島 尾八重神楽保存会 久留平氏(太鼓製作)＊ 沖縄県 津貫中間豊祭太鼓踊り保存会 平出水太鼓踊り保存会 佐敷町津波古獅子蹴跳保存会＊ 保栄茂自治会		平成10年度助成(47)		北海道 穂別町アイヌ民族文化保存会 岩手県 白符荒馬踊保存会 宮城県 丹内金津流鹿躍保存会 秋田県 行山流鹿踊保存会 山形県 山伏神楽保存会 群馬県 雄物川町岡本新内伝承会 福井県 五城目町民俗芸能保存連絡協議会 山口県 横岡サエの神保存会 愛媛県 平田さしこの会＊ 高知県 猿田彦神社大和神楽保存会 福岡県 大宮神社獅子舞保存会 佐賀県 海南神社面神楽保存神楽師会 長崎県 湯川五社神社伶人会 熊本県 木津豊漁太鼓保存会 福井県 若狭町三宅六斎念佛保存会 山口県 今庄羽根曾踊保存会 長野県 内山柱松保存会 岐阜県 若松友志会 三重県 栗谷念佛踊り保存会 滋賀県 老杉神社頭屋行事保存会 京都府 伊根町立石区 大阪府 久多の山村生活用具保存会＊ 兵庫県 野間出野秋祭り保存会 奈良県 多可町中央公民館播州歌舞伎クラブ 和歌山 祭文音頭保存会 鳥取県 木本八幡宮の御田祭保存会 島根県 円通寺人形芝居保存会 岡山県 出雲大社教神代神楽波積支部波積神楽団 広島県 今田町内会 徳島県 横野和紙工業協同組合＊ 香川県 比和町郷土芸能振興会 愛媛県 つるぎ町天の岩戸神楽保存会 高知県 香翠座デコ芝居保存会 福岡県 弓削雨乞踊保存会 佐賀県 西畠人形芝居保存会 長崎県 鐘崎盆踊り振興会 熊本県 東真手野舞浮立保存会 鹿児島 嬉野町温泉区面浮立保存会 沖縄県 黒丸踊保存会 熊本県 目丸棒踊り保存会 本町虫追い太鼓を考える会	
平成12年度助成(49)		平成9年度助成(47)		北海道 雷公神社神楽会 青森県 田子神楽保存会 岩手県 行山流都島鹿踊保存会 宮城県 嶋嶼立神楽保存会 秋田県 森岳歌舞伎保存会 山形県 小田島田植踊保存会 福島県 北部先囃子若龍会 栃木県 芦沼獅子舞保存会 群馬県 沼須人形芝居保存会あけぼの座 千葉県 野田津久舞保存会 神奈川 宮城野獅子舞保存会 新潟県 警女唄ネットワーク 富山県 越後弥彦手仕事俱楽部＊ 石川県 八尾町曳山保存会 福井県 小松市歌舞伎愛好会 長野県 和久里壬生狂言保存会 岐阜県 仁科神明宮神楽保存会 静岡県 新楽舎獅子舞保存会 愛知県 島田帶祭保存会 三重県 古出来町神社奉贊会 長太鯨船保存会 滋賀県 なすび団扇継承保存会＊ 深野和紙保存会＊ 綿向神社雅楽「樂人座」	
北海道 掛潤奴保存会 青森県 目名神楽会 岩手県 上郷しし踊り保存会 宮城県 塚沢早池峰神楽保存会 秋田県 和済法印神楽保存会 山形県 秋田市太平山谷番楽保存会 福島県 沢渡獅子舞保存会 沖縄県 海老根伝統手漉和紙保存会＊ 八楓都々古別神社樂人会					

平成3年～28年 都道府県別伝統文化助成先一覧(3)

*印は民俗技術

助成先		助成先		助成先							
長崎県 熊本県 大分県 宮崎県 鹿児島 沖縄県		滑石童踊保存会 菜ノ花会＊ 九州相良古代踊り下免田保存会 佐伯市宇目酒利獅子保存会 下旦祇園囃子保存会こども祇園囃子 行膝町臼太鼓踊り保存会 六日町ヨイマカ保存会 塩田次郎氏(薩摩琵琶製作)＊ 鮫島健志氏(加世田の鍛冶)＊ 大浜青年会 今泊棒術保存会		大阪府 兵庫県 奈良県 和歌山 鳥取県 島根県 岡山県 広島県 山口県 徳島県 愛媛県		樺井西青年団 宗教法人 廣峯神社 月ヶ瀬奈良晒保存会＊ 熊野速玉大社祭事保存会 江波三番叟保存会 都神楽団 地域伝統工芸がませごの会＊ 神根神社獅子舞保存会 磐門神楽団 郷之崎神楽団 山崎八幡宮 本山神事保存会 大俣じょうれい踊り保存会 河内口説保存会 野間獅子連中 福岡県 佐賀県 長崎県 熊本県 大分県 宮崎県 鹿児島 沖縄県		茨城県 群馬県 埼玉県 神奈川 新潟県 富山県 山梨県 長野県 愛知県 三重県 滋賀県 兵庫県 奈良県 鳥取県 島根県 広島県 山口県 徳島県 香川県 愛媛県 高知県 福岡県 佐賀県 長崎県 熊本県 大分県 宮崎県 鹿児島 沖縄県		西金砂神社田楽舞保存会 平出歌舞伎保存会 日進餅つき踊り保存会 NPO法人小田原鑄物研究所＊ 城腰花笠踊り保存会 岩瀬まだら保存会 八朔祭下町屋台保存会 小菅柱松神事保存会 大治太鼓保存会 能田徳若万歳保存会 ゆうづる会＊ 大江鞆鼓踊り保存会 下笠参弥礼踊り保存会 さいれん坊主保存会 月ヶ瀬奈良晒保存会＊ 田口水分神社奉讃会 竹田さいとりさし少年団 追神頭打供盛団 養山八幡の吹囃子行事保存会 柳井縞の会＊ 祝島神舞奉讃会 坂州若連中 ひょうげ祭り保存会 野市町立山獅子舞芸術保存会 川名津神楽保存会 一の宮万歳保存会 吉木芸能保存会 立岩浮立保存会 馬渡区鉢浮立保存会 土井丸浮立保存会 大浦区舟グロー保存会 嵯峨島オーモンデー保存会 福山神楽保存会 放生会委員会 北原人形芝居保存会 伊形花笠踊り保存会 塩田次郎氏(薩摩琵琶製作)＊ 下小原八月踊保存会 大川青年会 謝名アヤチ獅子保存会	
平成15年度助成(35)		平成14年度助成(48)		平成13年度助成(50)							
北海道 青森県 宮城県 秋田県 山形県 群馬県 千葉県 神奈川 石川県 岐阜県 静岡県 愛知県 三重県 滋賀県 京都府		剣潤神楽保存会「剣龍会」 大川原の火流し保存会 山田大名列組合 潟船保存会＊ 根子番楽保存会 吹浦田楽保存会 行田獅子舞保存会 バッパカ獅子舞保存会 長谷ささら踊り盆唄保存会 輪島市本町キリコ奉賛会 数河獅子保存会 富士宮囃子保存会 ちんとろ祭委員会 本郷「かんこ」踊り保存会 志那中サンヤレ踊り保存会 二箇上区		篠路歌舞伎保存会 入口青年会 彦部郷土芸能保存会 板用肩怒剣舞保存会 河南鹿嶋ばやし保存会 君萱若松神社神樂会 東長野ささら保存会 南陽市古代織りの伝統を守る会＊ 白鳥神社太々神楽保存会 真家みたまおどり保存会 上横倉の獅子舞保存会 千本木龍頭神舞保存会 沖内囃子保存会 野田津久舞保存会 手作り絹研究会・多摩織部会＊ 相模里神楽垣澤社中 諏訪神社獅子舞保存会 じじぐれ祭保存会 下市之瀬獅子舞保存会 表門神社神楽保存会 木賊獅子保存会 有道しゃくし保存会＊ 伝承知多木綿つものき＊ 石上げ祭伝承保存会 野口御神楽保存会 上砥山田楽踊保存会 南光子ども歌舞伎育成会 月ヶ瀬奈良晒保存会＊ 藤白の獅子舞保存会 南本通吉行行事保存推進協議会 白明会＊ 大朝飾り牛保存会 徳佐はやしだ保存会 井原圭子氏(和紙用簀製作)＊ 水田天満宮稚兒風流保存会 戸ヶ里浮立保存会 祖子分面浮立保存会		北海道 青森県 岩手県 宮城県 秋田県 山形県 福島県 茨城県 栃木県 群馬県 埼玉県 千葉県 東京都 神奈川 富山県 福井県 山梨県 長野県 岐阜県 愛知県 三重県 滋賀県 兵庫県 奈良県 和歌山 島根県 岡山県 広島県 山口県 愛媛県 福岡県 佐賀県 長崎県 熊本県 大分県 宮崎県 鹿児島 沖縄県		ペーパン福島踊り保存会 高館駒踊り保存会 小袖漁撈唄保存会 湯屋神楽保存会 筆甫神楽保存会 八沢木獅子舞保存会 福米沢送り盆保存会 八ツ沼大名列組合 両原早乙女踊り保存会 東金砂神社田楽舞保存会 大沢田太々神楽保存会 上泉獅子舞保存会 長安寺六字詰念仏講中 二田物部神社神楽舞保存会 今庄羽根曾踊保存会 湯原神社式三番保存会 外倉獅子舞保存会 高桑太鼓保存会 金沢歌舞伎 なすび団扇継承保存会＊ 「てんてん」保存会 滋賀県 京都府			
平成16年度助成(36)		平成17年度助成(51)		平成18年度助成(52)							
青森県 岩手県 宮城県 秋田県 山形県 福島県 栃木県 群馬県 千葉県 東京都 神奈川 富山県 長野県 愛知県 三重県 愛知県 三重県		片岸えんぶり組 田東剣舞保存会 廿一田植踊保存会 黒川番楽保存会 羽黒山松例祭若者衆 昭和村からむし織後継者 →育成事業実行委員会＊ 尾ざく獅子舞保存会 赤城町古典芸能保存会 本納滝之谷獅子舞保存会 むさしのばやし保存会 三増獅子舞保存会 宮崎神楽保存会 和田中神社太神楽保存会 上駒沢祭典保存会 向山神楽獅子保存会 水沢お諏訪おどり保存会		大坂府 兵庫県 奈良県 和歌山 鳥取県 島根県 岡山県 広島県 山口県 愛媛県 福岡県 佐賀県		樺井西青年団 宗教法人 廣峯神社 月ヶ瀬奈良晒保存会＊ 熊野速玉大社祭事保存会 江波三番叟保存会 都神楽団 地域伝統工芸がませごの会＊ 神根神社獅子舞保存会 磐門神楽団 郷之崎神楽団 山崎八幡宮 本山神事保存会 大俣じょうれい踊り保存会 河内口説保存会 野間獅子連中 浮立保存会 佐賀県 長崎県 熊本県 大分県 宮崎県 鹿児島 沖縄県 徳島県 香川県 愛媛県 高知県 福岡県 佐賀県 長崎県 熊本県 大分県 宮崎県 鹿児島 沖縄県		茨城県 群馬県 埼玉県 神奈川 新潟県 富山県 山梨県 長野県 愛知県 三重県 滋賀県 兵庫県 奈良県 和歌山 島根県 岡山県 広島県 山口県 愛媛県 福岡県 佐賀県 長崎県 熊本県 大分県 宮崎県 鹿児島 沖縄県		西金砂神社田楽舞保存会 平出歌舞伎保存会 日進餅つき踊り保存会 NPO法人小田原鑄物研究所＊ 城腰花笠踊り保存会 岩瀬まだら保存会 八朔祭下町屋台保存会 小菅柱松神事保存会 大治太鼓保存会 能田徳若万歳保存会 ゆうづる会＊ 大江鞆鼓踊り保存会 下笠参弥礼踊り保存会 さいれん坊主保存会 月ヶ瀬奈良晒保存会＊ 田口水分神社奉讃会 竹田さいとりさし少年団 追神頭打供盛団 養山八幡の吹囃子行事保存会 柳井縞の会＊ 祝島神舞奉讃会 坂州若連中 ひょうげ祭り保存会 野市町立山獅子舞芸術保存会 川名津神楽保存会 一の宮万歳保存会 吉木芸能保存会 立岩浮立保存会 馬渡区鉢浮立保存会 土井丸浮立保存会 大浦区舟グロー保存会 嵯峨島オーモンデー保存会 福山神楽保存会 放生会委員会 北原人形芝居保存会 伊形花笠踊り保存会 塩田次郎氏(薩摩琵琶製作)＊ 下小原八月踊保存会 大川青年会 謝名アヤチ獅子保存会	

平成3年～28年 都道府県別伝統文化助成先一覧(4)

*印は民俗技術

助成先		助成先		助成先	
				平成16年度助成(続き)	
熊本県	大浦獅子保存会	秋田県	大湯太鼓保存会	滋賀県	ずいき祭保存会
熊本県	柳別府太鼓踊り保存会	福島県	会津万歳安佐野保存会	京都府	丹後藤原舞興会*
大分県	深山流朝地神楽保存会	茨城県	片野排縄ばやし保存会	大阪府	大阪太鼓文化研究会*
宮崎県	郷之原芸能協賛会	栃木県	興野さら獅子舞保存会	兵庫県	小五月祭(棹の歌)保存会
鹿児島	鮫島健志氏(加世田の鍛冶)*	群馬県	泉沢町郷土芸能保存会	鳥取県	賀露神社麒麟獅子舞保存会
沖縄県	如竹踊り保存会	千葉県	万作踊り松戸保存会	島根県	須佐神楽保存会
	古見民俗芸能保存会	東京都	美山町鶴獅子舞保存会	広島県	小原大元神楽 小原神楽団
平成20年度助成(40)		神奈川県	あつぎひがし座		南方の万灯保存会
北海道	寿都松前神楽保存会	石川県	加賀万歳保存会	香川県	肥土山農村歌舞伎保存会
青森県	上十川獅子踊り保存会	福井県	舟寄踊り保存会	愛媛県	豊茂五ヶ鹿踊り保存会
岩手県	都鳥田植踊り保存会	愛知県	きねこさ祭保存会	高知県	西諸木花取踊り保存会
宮城県	日高見流浅部法印神楽保存会	滋賀県	椿神社流鏑馬保存会	佐賀県	広瀬浮立保存会
秋田県	鳥海山小滝舞楽保存会	大阪府	大阪欄間工芸協同組合*	長崎県	太田尾地蔵祭飾そうめん保存会*
山形県	舟渡獅子踊り保存会	兵庫県	仁色長持保存会	熊本県	戸根浮立保存会
福島県	北萱浜神楽愛好会	和歌山县	糸我郷土伝統芸能保存会		加勢川開発研究会合せ打保存会*
栃木県	下鉢石町自治会	鳥取県	美成地区		下里臼太鼓踊り保存会
群馬県	宝積寺白鬚神社雅樂部	島根県	野石谷伝統芸能保存会	大分県	荻神社俚楽
埼玉県	椿名神社太々神楽保存会	広島県	諸木郷土芸能保存会	宮崎県	太郎坊べぶ踊り保存会
千葉県	脚折雨乞行事保存会	徳島県	多田健二氏(阿波木偶人形制作)*	鹿児島	入来神舞保存会
東京都	岩沼の獅子舞保存会	香川県	香翠座デコ芝居保存会	沖縄県	新川青年会
神奈川	田無ばやし保存会	福岡県	豊前感応楽保存会		平成17年度助成(37)
新潟県	海南神社行道面保存会	佐賀県	西牟田区子供みこし・鉦浮立保存会	青森県	青森ねぶた正調囃子保存会
	他門神楽保存会	長崎県	平島ナーマイドー保存会	岩手県	大ヶ生山伏神楽保存会
	半田神社神楽舞保存会		ききつ船津ペーロン保存会		大船渡喜多会
	八口諏訪社獅子舞保存会		竹迫觀音祭保存下町分会	宮城県	新城の田植踊り保存会
	大垣外獅子舞保存会		栖本町郷土芸能保存会	秋田県	赤田獅子舞保存会
	美濃歌舞伎保存会		保戸島伝統芸能保存会	山形県	蕨岡延年の舞保存会
	静岡県		熊襲踊り保存会	福島県	館早乙女踊り保存会
	愛知県		細野一区輪太鼓踊り保存会	茨城県	木目沢三四獅子保存会
	三重県		小島棒踊り保存会	栃木県	日立郷土芸能保存会
	滋賀県		中間棒踊り保存会	埼玉県	三本木獅子舞保存会
	大阪府		中城村字津覇伝統芸能保存会	千葉県	辻の獅子舞保存会
	だいがく保存会				岩沼の獅子舞保存会
	奈良県	北海道	寿都松前神楽保存会		中野獅子保存会
	和歌山	青森県	大平大神楽		幸田羯鼓舞保存会
	島根県	岩手県	法領田獅子踊り保存会		矢部八幡宮獅子舞保存会
	岡山県	宮城県	羽山神楽保存会	東京都	田村ばやし保存会
	広島県	秋田県	浪板虎舞保存会	神奈川県	蕨生区自治会
	徳島県	山形県	鳥海山日立舞横岡番楽保存会	福井県	高尾山穂見神社神楽保存会
	香川県	福島県	幸生区・三地区契約会	山梨県	熊野神社祭囃子保存会
	福岡県	栃木県	浮島神社太々神楽保存会	長野県	桐原獅子舞保存会
	長崎県	群馬県	糠塚三四獅子保存会	愛知県	牧野嶋念佛踊り保存会
	熊本県	埼玉県	芦沼獅子舞保存会	三重県	白塚町通夜講
		千葉県	山本政史氏(日光下駄製作)*	滋賀県	渋川花踊り保存会
			貝沢西組獅子舞保存会	兵庫県	住吉神社水無月祭打込囃子保存会
			下日出谷餅搗踊り保存会	奈良県	田原地区伝統芸能保存会
			八幡神社の獅子舞保存会	和歌山	春駒保存会
			星竹囃子連	島根県	矢上田植ばやし保存会
			内島見神楽保存会	広島県	羽佐竹神楽団後援会
			二所宮獅子舞保存会	福岡県	八女市土橋八幡宮神幸行事保存会
			長畠日向神楽保存会	佐賀県	川内浮立保存会
			藤木道祖神祭保存会	長崎県	三部区
			山新田太神楽保存育成会	熊本県	中尾獅子浮立と唐子踊保存会
			名古屋港筏師一本乗り保存会	大分県	宝川内志賀段七踊り保存会
			矢浜神楽保存会	宮崎県	田原獅子保存会
			大原学区豊年太鼓踊り保存会	鹿児島	川内棒踊保存会
			田山花踊り保存会	沖縄県	久見崎盆踊り「想夫恋」保存会
			小野原住吉神社神舞保存会		天願獅子舞保存会
			栗井春日歌舞伎保存会		平成18年度助成(37)
			長尾神社湯立神楽保存会	北海道	元更別大国神社石見神楽保存会
			藤生神楽保存会	青森県	斗内獅子舞保存会
			上八万伝統文化を守る会	岩手県	豊沢大念佛剣舞保存会
			賀茂神社長床神事保存会		生出神楽保存会
			かぶと踊り保存会		大曲法印神楽保存会
			東洋町流鏑馬保存協議会		
平成21年度助成(42)					
北海道	大船南部神楽保存会				
青森県	乳井獅子保存会				
岩手県	四ツ堰鹿子踊り保存会				
	村崎野大乘神楽保存会				
宮城県	中新田火伏せの虎舞保存会				
秋田県	梅内郷土芸能保存会				
福島県	渡戸高野・彌組				
栃木県	文挟流手岡獅子舞講中				
群馬県	新井八幡宮獅子舞保存会				
埼玉県	北袋囃子連				
千葉県	不入斗同志会				
東京都	代々木囃子保存会				
	山田獅子舞保存会				
	小向獅子舞保存会				
神奈川県	羽森神社神楽舞保存会				
新潟県	門山獅子舞保存会				
富山県					

平成3年～28年 都道府県別伝統文化助成先一覧(5)

*印は民俗技術

助成先		助成先		助成先	
				平成21年度助成(続き)	
栃木県	鹿島神社郷土芸能保存会	熊本県	栖本町郷土芸能保存会	石川県	門前とどろ保存会
群馬県	天命錆物伝承保存会*	大分県	新町自治会	長野県	町区太々神楽実行委員会
埼玉県	白瀧神社太々神楽保存会	宮崎県	高木郷土芸能保存会	静岡県	高岡道祖神日待占祭保存会
千葉県	下小坂獅子舞保存会	沖縄県	都城市高城町桜木あげ馬保存会	愛知県	笛間神楽保存会
東京都	飯岡ばやし 日の出会い		鳩間民俗芸能保存会	東京都	日下部太鼓保存会
新潟県	高井戸囃子保存会		平成23年度助成(42)	北海道	大江鶴鼓踊保存会
富山県	大谷地和紙保存会*			青森県	中堀町自治会孔明祈水山保存会
石川県	藏王稚児舞の会			岩手県	質美下村区文化財保存委員会
福井県	加茂神社事伝承会			宮城県	日吉神社龍王の舞及び祝詞太鼓保存会
山梨県	向栗崎悪魔払い保存会			秋田県	福住下自治会
長野県	多賀区獅子保存会			山形県	奈良県
岐阜県	中之倉神楽保存会			福島県	八島町六斎念佛講
愛知県	湯原神社式三番保存会			群馬県	南道奴行列保存会
	河鹿神社賀喜踊保存会			埼玉県	江波三番叟保存会
	万足平を考える会*			千葉県	八神神楽団
	村木神社おまんと祭り保存会			東京都	龜山将氏(足踏み水車の修復)*
三重県	戸木東組かんこ踊り保存会			神奈川県	宇甘神社獅子舞保存会
滋賀県	小野町太鼓踊保存会			新潟県	富士神楽団
大阪府	深江菅細工保存会*			富山県	赤松煙火保存会*
兵庫県	西町獅子舞保存会			香川県	和田雨乞踊保存会
奈良県	田原地区伝統芸能保存会			福岡県	上久原白山宮獅子舞保存会
和歌山	堅田祭保存会			佐賀県	自然と暮らしを考える研究会*
岡山県	大浦神社			長崎県	権常寺浮立保存会
広島県	御調八幡宮花の踊り保存会			熊本県	竹迫觀音祭保存会
山口県	上野神楽舞保存会			鹿児島県	黒辺田野臼太鼓踊保存会
徳島県	森藤獅子舞保存会			沖縄県	塙田次郎氏(薩摩琵琶製作)*
香川県	安田おどり保存会				黒島民俗芸能保存会
愛媛県	井原圭子氏(和紙用簀製作)*				平成22年度助成(42)
高知県	泉州長者花鳥踊り保存会			青森県	二ツ森神楽芸能保存会
福岡県	植木の三申踊り保存会			岩手県	門中組振興会
佐賀県	鳥海浮立保存会			宮城県	佐藤明彦氏(堤人形製作)*
長崎県	森山本村郷土芸能保存会			秋田県	冬師番楽保存会
熊本県	東浦臼太鼓踊り保存会			山形県	西袋獅子踊保存会
大分県	北原人形芝居保存会			福島県	菅波伝統文化継承会
宮崎県	不土野芸能保存会			茨城県	あおき囃子連
鹿児島	土踊保存会			栃木県	河井獅子舞保存会
	童子八月踊り研究会			群馬県	木崎音頭保存会
	豊見城市 高安自治会			埼玉県	三若会
	平成25年度助成(42)			千葉県	柏合獅子舞保存会
青森県	上川目神楽保存会				熊野神社神楽保存会
岩手県	大石虎舞組				上本郷獅子講中
	二子築館神楽保存会				櫻立踊り保存会
宮城県	鳥屋ヶ崎八幡神社獅子舞保存会			東京都	川根谷内獅子保存会
秋田県	釜ヶ台番楽保存会			福島県	福島青年親交会
山形県	中獅子踊り保存会			石川県	小松尾小屋鳶保存会
福島県	和田神社太々神楽保存会			長野県	玉依比賣命神社
茨城県	久保田のおはやし保存会			岐阜県	加納まちづくり会(和傘製作)*
栃木県	万町一丁目東自治会			静岡県	巖室神社鎮火祭保存会
群馬県	新田赤堀獅子舞保存会			愛知県	有松天満社文嶺講
埼玉県	北本宿囃子連			三重県	牛蒡祭保存会
	神明社神楽保存会			滋賀県	志賀神社氏子総代
	関下囃子			大阪府	三ツ松明土行念仏保存会
千葉県	檜原村春日神社御飼神事保存会			兵庫県	北野まつり保存会
東京都	長沢祭典実行委員会			奈良県	惣谷狂言保存会
新潟県	打出青壯年部			鳥取県	向垣神社祭礼行事保存会
富山県	串町町内会			島根県	御靈会風流保存会
石川県	闇見神社例祭神事保存会			岡山県	佐方子供吉備神楽伝承教室
福井県	新町お囃子保存会			広島県	おおたけ手すき和紙保存会*
山梨県	NPO法人グリーンカットワーク協会・竹部会*			山口県	山代白羽神楽保存会
岐阜県	愛知・半田・板山万歳保存会			徳島県	橋だんじり祭り獅子組
愛知県	東玉垣唐人踊り保存会			愛媛県	北方獅子舞保存会
三重県	鍋冠祭保存会			高知県	シットロト踊り保存会
滋賀県	御領地車保存会			福岡県	鷹尾神社伝統芸能文化保存維持会
大阪府	羽淵獅子舞保存会			佐賀県	母ヶ浦面浮立保存会
兵庫県	吐山太鼓踊り保存会			長崎県	平島盆踊り保存会
奈良県					
	平成24年度助成(54)				
青森県	五戸えんぶり組				
岩手県	門中組振興会				
	片岸虎舞保存会				
宮城県	山岸さんざ踊り保存会				
	小室契約会				
	浪板虎舞保存会				
	磯草虎舞保存会				
	大谷大漁唄い込み保存会				
	長塩谷南部神楽保存会				
	大室南部神楽保存会				
	相川南部神楽保存会				
	有限公社仙台堆朱製作所*				
	秋田万歳保存会				
	大谷神楽保存会				
	川原田神楽保存会				
	新館太々神楽保存会				

平成3年～28年 都道府県別伝統文化助成先一覧(6)

*印は民俗技術

助成先		助成先		助成先			
平成28年度助成(続き)		平成27年度助成(44)		平成25年度助成(続き)			
長野県	影山区	北海道	遠矢神楽舞保存会	和歌山	三船踊り保存会		
愛知県	白山神社奉納雅楽舞踊保存会	青森県	甲地神楽保存会	島根県	美保神社神事奉賛会		
三重県	牛蒡祭保存会	岩手県	小通芸能保存会	岡山県	佐方ひがさき踊り保存会		
滋賀県	金居原太鼓踊り保存会	宮城県	榎沢芸能保存会	広島県	錦城神楽団		
京都府	福知山市佛性寺自治会	秋田県	三輪流神楽保存会	山口県	滝坂神楽舞保存会		
兵庫県	熊野神社淨舞保存会	山形県	坂之下番楽保存会	徳島県	宿毛谷獅子舞保存会		
奈良県	龍口獅子舞保存会	茨城県	綱木獅子踊り保存会	愛媛県	金栄会		
和歌山	土生八幡神社「お頭保存会」	栃木県	古内大杉ばやし保存会	高知県	四ツ白武士踊り会		
鳥取県	大和佐美命神社獅子舞保存会	埼玉県	天下一闘白流西組獅子舞保存会	福岡県	安武楽保存会		
島根県	野石谷伝統芸能保存会	千葉県	久那獅子舞保存会	佐賀県	豊前小倉織研究会*		
広島県	下板木コミュニティー	東京都	金鑽神樂永田組	長崎県	執行分浮立保存会		
山口県	むつみ神楽保存会	神奈川	浄土宗西福寺	熊本県	長崎明清楽保存会		
徳島県	東辻郷獅子舞牡丹連保存会	新潟県	大宮前郷土芸能保存会		市房山神宮里宮神社		
愛媛県	NPO法人姫だるまプロジェクト*	富山県	多摩めかいの会*		長坂なれなれなすび踊り保存会		
高知県	日高村太刀踊保存会	石川県	根府川寺山神社鹿島踊保存会		中野神社神楽保存会		
福岡県	元岡祇園ばやし保存会	長野県	昔かたり春よこい		黒潮太鼓		
佐賀県	宮野浮立保存会	岐阜県	広野自治会	平成26年度助成(44)			
長崎県	横尾だんじり保存会	愛知県	神原壮年団	北海道	美和權現獅子舞保存会		
熊本県	東方組太鼓踊り保存会	三重県	日和山神社芸能保存会	青森県	目名神楽会		
大分県	岡倉神楽保存会	滋賀県	綾野第三自治会小獅子軛保存会	岩手県	の組菱和会		
宮崎県	酒谷地区むらおこし推進協議会	京都府	知立神楽保存会	宮城県	白浜自治会(旧白浜契約会)		
鹿児島	重久神事神舞保存会	大阪府	若宮八幡神社北村石取り祭車保存会	山形県	舟渡獅子踊り保存会		
沖縄県	友寄獅子舞棒術保存会	兵庫県	大野木豊年太鼓踊保存会	福島県	松岡若連		
	崎原克友氏(八重山上布織物技術)*	奈良県	玉田神社宮座「森座」	栃木県	日光囃子保存会		
		和歌山	中垣内地車保存会	群馬県	津久田人形操作伝承委員会		
		鳥取県	土師獅子舞保存会	埼玉県	今成地区山車・囃子保存会		
		島根県	篠原おどり保存会		赤沼民俗文化財保存会		
		広島県	亀の川念佛踊り保存会		久長元耕地獅子舞保存会		
		山口県	菖蒲神社麒麟獅子舞保存会		道庭獅子連保存会		
		徳島県	三谷神社獅子舞保存会		八幡囃子保存会		
		愛媛県	山根神楽団		台祭囃子保存会		
		福岡県	おおたけ手すきと紙保存会*		新潟県	水沢伝統芸能保存会	
		佐賀県	切山歌舞伎保存会		富山県	加茂神社神事伝承会	
		長崎県	池谷郷土芸能保存会		石川県	内灘町宮坂区	
		熊本県	井原圭子氏(和紙用箆製作)*		福井県	鈴鹿区太太鼓保存会	
		大分県	永井獅子保存会		山梨県	一之瀬高橋春駒保存会	
		宮崎県	浮立・荒踊り保存会		長野県	根神社式三番叟保存会	
		鹿児島	命婦の舞保存会		岐阜県	綾野第4自治会綾野祭軛猩々軛保存会	
		沖縄県	仲町の茶わん鉢保存会		愛知県	上名和祭りばやし保存会	
			宇土市轟泉簡易水道組合*			東大高祭禮保存会	
			堅浦古典芸能保存会			下笠参弥礼踊り保存会	
			神下俵踊り保存会			出雲風流花踊り保存会	
			日手久民謡保存会			NPO法人丹波漆*	
			仲西獅子舞保存会			大阪府	延喜式内社 岐尼神社
						和歌山	池田秀孝氏(紀州高野組子細工技術)*
						鳥取県	服部神社獅子舞保存会
						島根県	玉造調理師会
						広島県	山波神楽団
						山口県	住吉神社お船説保存会
						徳島県	鳴門大帆保存会
						香川県	石切唄保存会
						愛媛県	掛木天満宮「牛鬼」保存会
						高知県	御田八幡宮秋の例祭保存会
						福岡県	柳川市立柳河小学校
							→特別クラ「子どもどろづくどん」
						佐賀県	川上鉢浮立保存会
						長崎県	東上面浮立保存会
						熊本県	熊本新町獅子保存会
						宮崎県	細江神楽保存会
							風田製糖組合*
							鹿児島
							沖縄県
							勢理客区
平成28年度助成(43)							
北海道	寿都松前神楽保存会	岩手県	嘉瀬奴踊り保存会	島根県	玉造調理師会		
青森県	入口青年会	宮城県	板沢しし踊り保存会	広島県	山波神楽団		
		秋田県	赤谷神楽保存会	山口県	住吉神社お船説保存会		
		山形県	鳥海山小滝舞楽保存会	徳島県	鳴門大帆保存会		
		福島県	清川獅子神楽実行部会	香川県	石切唄保存会		
			太田川梅若歌念佛踊保存会	愛媛県	掛木天満宮「牛鬼」保存会		
			梅田三四獅子舞保存会	高知県	御田八幡宮秋の例祭保存会		
			大沢獅子舞保存会	福岡県	柳川市立柳河小学校		
			鷺宮太々神楽保存会		→特別クラ「子どもどろづくどん」		
			栗生田囃子会		佐賀県	川上鉢浮立保存会	
			新久はやし保存会		長崎県	東上面浮立保存会	
			家之子獅子連郷土芸能保存会		熊本県	熊本新町獅子保存会	
			森山はやし保存会		宮崎県	細江神楽保存会	
			田村ばやし保存会			風田製糖組合*	
			小川連中			鹿児島	
			岩瀬白山町曳山愛好会			沖縄県	
			日吉青年会			勢理客区	

累計助成件数 1,094件

財団案内

□□□□□□□□□□□□ 財團の目的 □□□□□□□□□□□□

明治安田クオリティオブライフ文化財団(理事長:関口憲一)は、音楽における人材育成ならびに地域の伝統文化の保存維持、および後継者育成に対する助成などをおこない、もって国民生活の質的向上ならびにわが国文化の発展に寄与することを目的としています。

【財団の概要】

名 称	公益財団法人 明治安田クオリティオブライフ文化財団 The MEIJI YASUDA CULTURAL FOUNDATION
設 立	平成3年(1991年)6月10日
主務官庁	内閣府
基本財産	15億2,000万円
事業内容	<ul style="list-style-type: none">・音楽分野における若手芸術家人材育成に対する助成・民俗芸能等地域の伝統文化の保存維持、後継者育成に対する助成・芸術文化活動に関する調査研究、出版物の刊行
事業計画	<ul style="list-style-type: none">○クラシック音楽分野における若手音楽家人材育成に対する助成<ul style="list-style-type: none">・海外における音楽研修に対する助成・国内音楽学生に対する奨学援助○民俗芸能等地域の伝統文化の保存維持、後継者育成に対する助成<ul style="list-style-type: none">・地域の民俗芸能(含、民俗行事、民俗音楽)の保存維持、後継者育成のための助成・地域の民俗技術(含、伝統的製作技術、衣食住に関わる生活技術、伝統工芸)の保存維持、後継者育成のための助成
事業成果	これまでの累計助成状況(平成28年11月現在) <ul style="list-style-type: none">・音楽分野 475人 8億6,600万円・伝統文化分野 1,094件 5億7,397万円
主な出捐企業	明治安田生命保険相互会社